

ひとりから

子ども会情報紙『ひとりから』

発行日/2022年7月1日

発行/真宗大谷派(東本願寺) 青少幼年センター
〒600-8164 京都市下京区藤訪町通六条下る上柳町199
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-371-6171
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp



泉龍寺 親子の集い



蓮ちゃん通信 その①

『花まつり』のリーフレットを発行しました!



慶讃事業である「ほとけの子リーフレット」改訂の第2弾として、『花まつり』を発行しました。中にはお釈迦様誕生の物語が優しい言葉で書かれています。ぜひ、子ども会や法務の場でご活用ください。

教務所または青少幼年センターでお求めください。(無償)

●サイズはA6 (A5二つ折り)



「お寺やし場所もあるよ!泣いても騒いでも大丈夫よ!」親子の集い』やるこー」
近所にはマンションが多く、家でも外でも子どもの泣き声や生活音に気を遣い、息抜きできる場を求めている方が多いことを知りました。6年程前に友人との会話をきっかけに、大人も子どもも近所の方も、今までお寺に来たことがなかった方にもお寺を知ってほしい、気軽に来てほしい!そのような思いから『親子の集い』を始めました。
集いに来る方とお寺以外でもお互い声をかけ合う仲になり、知り合いの輪が広がっていきました。しかし、以前のように多くの人が集まりづらい状況下で、今はオンラインやお寺で規模を縮小して親子ヨガを行っています。
お寺が少しでもほっこりできる出あいの場となるように模索しながら、これからも集いを続けていきたいです。

お寺を知ってほしい! 気軽に来てほしい!

青少幼年スタッフ 泉阿弥華 (いずみあやか)

※二〇二二年十一月三日(真宗本廟の阿弥陀堂・御影堂で)行われた「子ども報恩講のついで」での講話を掲載いたします。

報恩講とは？

真宗大谷学園専務理事
真城 義磨
ましろ よしひろ

◆「恩」の意味

「報恩講」とは「お返し」といふことなのかなをお話しよう。

「報・恩・講」と漢字三文字の下から「う」と「講」は、集まりのこと。「恩」は、「私」のために、してもらったことに気がつくこと。みなさんは「私」のために、「誰が」、「どんなこと」を「してきてくれたかな?」今日の朝からの事を考えても、例えば、「朝ご飯を作ってくれた」とか、「ごまで連れてきてくれた」とかですね。また、私のお返しを応援してくれている人は、どこにどのくらいいるだろうか。私がうまうまいたら喜んでくれる、うしろ私のお返しを気にかけてくれる人が、どれほどいるだろうか。うしろ心配したり、応援したり、そううしろ人に囲まれているじゃないか。そううしろに「あ、うしろやな」と気がつきませぬ。

そう考えた時、プレゼントは「物」ばかりではなく、「おはよう」と声をかけてもらったり、お返しも「うしろ」も見てくれる。「お返し」も「うしろ」もあるね。うしろ「お返し」も笑顔のプレゼントもある。ご飯を作ってくれたり、汚れた服を洗ってくれたり、それはみなさんへの贈り物ですね。他にも「お返し」もいろいろあります。

◆「報」の意味

ここで「うしろ」を考えてほしいことがあります。みなさんが、誰かに物を差しあげたとき、誰かから、その時、贈った相手やプレゼントが受け取ってくれなかったら、プレゼントは成り立たないよね。つまり、贈り物は、差しあげた相手が「受け取ったよ。ありがと」と言ってくれてはじめて成り立つのです。そうやって「ありがと」と言っているのが「報」の上の文字「報」の意味です。していただいたことに気がついて、それに対して「ありがと」とか、「じゃあ、私もお返ししますよ」と言ってみる、何かできることを少しでもやってみる。それが「報恩」ということなんです。

私たちは、実は仏さまからいろいろ贈りものをいただいているのです。そのことに気がついて、「仏さま、受け取りました。ありがと。」「お返し」の時に「南無阿彌陀仏」と言葉や言っているんです。だから「なんなんだよ」と言っているのは、仏さまからのプレゼントが、私のところまで届いています。受け取りました、ありがと。そういう意味なんです。

仏さまから見たら、みなさんの中には、いてもいなくてもいい人は誰もいません。みんな大事な人です。だから

子どもたちと聞く法話

仏さまは、みなさんにいろんな形でいろいろなプレゼントを贈りたくてたまらないのです。仏さまがいっぱい送ってくれて、こっちゃんが「受け取りました。ありがと」と言っているのは、仏さまも「届いて良かった」と喜んでくださるわけなんです。

◆親鸞さまからのメッセージを確かめ合う集い

このことを私たちに教えてくださったのが、親鸞さまという人です。私たちが、いつ何をしている時も、仏さまは「見ていますよ」「応援していますよ」「いきいきと生きてほしいと願っていますよ」「本心に大事なことに気がついてくれるように願っていますよ」。こっちゃんが忘れていても、そううしろのことが実はずっとあるよ、そのことにみなさん気がつきませぬ、私に気がついて、「南無阿彌陀仏」と「届きました、ありがと」ということをずっと言っていますよ。みなさんも言ってみてね、と教えてくれたのが親鸞さま。

ですから報恩講は、「仏さまありがと」「お返し」の親鸞さまありがと「お返し」の集まりなんです。仏さまや親鸞さま

ありがと



から私たちがへのメッセージ、言葉。あるいは、眼差し、願いがあるのだということに気がついていく。仏さまは、どの人も本心に大事な人と見てくださっている。仏さまがみなさんの方に手を合わせて大事に見て下さっています。そこに気がついて、「たくさんいたいた私には、何が出来るかな」と思っている家のお手伝いをしたり、あるいは、せっかくなことを見ていただいている私だから、自分を大事にしていく。そのようにお返しを「報恩」と言っている、みんなが同じ方向をむいて手を合わせ、「ありがと」「南無阿彌陀仏」と言っている、みんなこの大切なことを確かめ合う集まりのことを「報恩講」というわけなんです。

蓮ちゃん通信 その②

慶讃テーマソングの楽譜を発行しました♪

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要の慶讃テーマソングの楽譜が真宗大谷派合唱連盟より発行されました。ぜひ、お寺や教化の場でご活用ください。

収録曲

- 「^{あす}今日も明日もあなたもわたし」 作詞：袖岡菜月 作曲：新実徳英
- 「ひとりじゃない」 作詞：串馬千聖 作曲：北川昇
- 「あなたのこえ」 作詞：片桐和夫 作曲：清澤久恵

●事務手数料100円+送料 ●サイズ:A4
●お問合せは青少年センターまで
(Tel: 075-354-3440 Mail: oyc@higashihonganji.or.jp)



夏休みに読みたい絵本

ひとりからはじめる
イベントレシピ



体いっぱい、自然の力を感じる夏。そんな夏にピッタリの絵本を紹介します。
読んだあと、一緒に空を見上げたり散歩に行ったり。活動意欲も湧きそうですね。
子ども会でも家庭でも、みんなでたくさん楽しんでください。



にゅうどうぐも

野坂勇作 さく／根本順吉 監修 (福音館書店)

時刻の変化によって夏の空は刻々と変化します。綿雲がむくむく盛り上がり、力持ちの巨人みたい。その綿雲が入道雲に変わると今度は空いっぱいに広がっていき…。最後にみんなで眺めた空には何が見えるでしょうか？



はちうえぼはぼくにまかせて

ジーン・ジオン さく
マーガレット・ブロイ・グレアム え
もりひさし やく (ペンギン社)

鉢植えの世話が得意なトミーは、夏のバカンスに行く近所の人たちの鉢植えを預かり世話をします。家じゅうは鉢植えだらけになって、まるでジャングル！トミーの聡明さと根気強さは、鉢植えの植物たちを元気に育てます。色彩控えめの絵もすごく可愛らしくあたたかい。



だいちゃんとうみ

太田大八 さく・え (福音館書店)

だいちゃんといとこのこうちゃん、おだやかな海に潜って魚を捕ったりして過ごします。作者の太田大八さんが幼少の頃を思い出し、海の生活をいきいきと描きました。昼間の水面や夕陽のあたる海辺のカットが美しいです。大人の私達が読んでみると、昔なつかしい家庭の匂いも蘇るかもしれませんね。



みずたまレンズ

雨が降ったあと、植物や虫などにぼつぼつと残る水玉。顔をよーく近づけて見てみよう。水玉の中には何が見えるかな？雨が上がったら、自然の不思議を探しに行きたくなります。



晴れていると思ったら、どしゃぶりがやってきた！雨のにおい、地面のにおい、そしてたくさんの音・音・音…。ぼくは体をいっぱいに広げて、雨と遊ぶ！

どしゃぶり



ちいさなへいたい



戦争が、始まった。そう、なぜそうなったかわからないうちに戦争は始まる。そして、戦争が終わった。勝って喜ぶ人。愛する人が死んで悲しむ人。僕の友達がたくさん死んだ。そして僕は考える。あれは何だったのかと。

夏休みの間に戦争や平和を考える機会があると思います。子どもたちと、ぜひその時間を共有したいものです。



「ひとりから」はじめる仏事

子どもたちに
伝えてみませんか？

※大正時代、本山社会課から『児童と宗教』という児童教化の指導者のための雑誌が発刊されていました。そこには、先輩方が伝えてくださった遺産がたくさん。このコーナーでは、そこに連載されていた「教案」から、私たちの生活の中の仏事に関するものをサガエさんがリライトしてお届けします！！

※本山社会課…社会と寺院をつなぐべく初めて派内に設置された宗務組織。宗派の青少年教化を担っていた。

いのち 無量寿

「いのち」

お友だちのなかには、ご親戚の方や知り合いの方が亡くなられ、お葬式でお見送りした方があるかもしれません。そんなとき、何歳で亡くなられたかが話題になるかもしれませんね。ずいぶん長く生きられても「もう少し生きて欲しかった」と、尽きない悲しみが語られます。わたしたちは、元気で長生きを願うので、あたり前かもしれません。しかし、いかに長寿であっても、人間の「いのち」には限りがあります。

無量寿の「いのち」

わたしたちはみんな「ほとけの子」として、称名念仏「南無阿弥陀仏」のみ名をお呼びします。

み仏さまは、生きることは「時間の長い、短いことで競いあうものではありません」と導いてくださいます。そして、生きているわたしたちに、「いのちはかがやき、尊いものですよ」ということに気がつきなさいと願っていらっしゃいます。

「いま、ここを生きる」

み仏さまは、過去を生きることや明日になればなんとかなるという生き方ではなく、「いま、ここを生きる」ことが無量寿の「いのち」を生きることですと、わたしたちに伝えようとされています。

「いま、ここを生きる」こそ、無量寿につながるのでしょうか。

出典：幡谷淳信(教材)「二月教案」
『児童と宗教』第3巻第2号より一部抜粋、現代語訳
リライト：“サガエさん”こと佐賀枝夏文

ボクはこんな風に話してみました



さがえ なつみ
佐賀枝 夏文
(大谷大学名誉教授)

わたしたちは限りある「いのち」を生きています。その「いのち」をおしゃか様は「無量寿」と説いていただきました。限りある「いのち」が、時間を越える「無量寿」としてお教えいただきました。すてきなおしゃか様の説かれた世界に導かれるといいですね。

コーナーの活用例

- ④ 本文「無量寿」をそのまま覚えて話す。
または、ご自身の表現で話す。
- ④ プリントして配布し、朗読する。
上記以外にもその場に合わせてご活用ください！

本文のPDF データは、青少年センターホームページ「子どもとあそぼう ひとり仏事」のコーナーからダウンロードいただけます。

◎この生活のただ中で「南無阿弥陀仏」は私にどうはたらいているのか。親鸞さまはどんな方なのか。言葉にすることも、まして子どもにも伝えることは本当に難しいことです。年に一度の報恩講、さらには来年お迎えする慶讃法要を機に、私なりの言葉を紡ぐことの大切さを感じています。
(編集長 池崎方子)

◎2023年5月5日は東本願寺へ行くこと!!
来月5月5日(ごまの日、真宗本願を会場に、「であつつながる」ともある)をテーマに、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業「子どものつどい in 東本願寺」を開催します。開催まで1年をきり、また新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催できるかどうかという不安も抱えながらではありますが、現在急ピッチで一人でも多くの子どものために楽しんでもらえるよう準備を進めています。11月1日から「つどい」の団体参拝申込を開始する予定ですので、皆様のご参加をお待ちしております。
(青少年センター 主事 萩村一寿)

編集後記



真宗大谷派の青少年教化の情報をお届けします。
<https://www.facebook.com/oyc.hitorikara/>
※facebookの個人アカウントをお持ちでなくてもご覧いただけます。

●真宗大谷派(東本願寺)青少年センター TEL.075-354-3440



青少年センターホームページ

東本願寺 青少年センター

ぜひ、ご覧ください!!

検索